

## 商工会議所 L O B O ( 早期景気観測 )

- - 平成 1 9 年 1 2 月調査結果 - -

( 平成 1 9 年 1 2 月 2 7 日 )

調査期間：平成 1 9 年 1 2 月 1 3 日～ 1 9 日

調査対象：全国の 4 0 7 商工会議所が 2 5 7 8 業種組合などにヒアリング  
( 内訳 ) 建設業 3 7 8 製造業 6 1 6 卸売業 2 3 5  
小売業 7 3 6 サービス業 6 1 3

調査項目：今月の業況・売上・採算などについての状況 ( D I 値を集計 )  
および、業界として当面する問題など

D I 値 ( 景況判断指数 ) について

D I 値は、業況・売上・採算などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

D I = ( 増加・好転などの回答割合 ) - ( 減少・悪化などの回答割合 )  
業況・採算 : ( 好転 ) - ( 悪化 )      売上 : ( 増加 ) - ( 減少 )

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 3 6  
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ( <http://www.jcci.or.jp> )でもご覧になれます。

## 【平成19年12月調査結果のポイント】

### 全指標が悪化、業況DIは4年ぶりにマイナス40台へ

12月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.1）よりマイナス幅が4.7ポイント拡大して40.8となり、4カ月連続で拡大した。マイナス40台は51カ月ぶり。

産業別の業況DIは、卸売がほぼ横ばいであったものの、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

景気に関する声、当面する問題としては、各業種から業況好調、気温低下の影響などによる売上増加、先行き期待という声が寄せられている一方、業況低迷、仕入コストの上昇による採算悪化、消費の低迷による売上減少などを訴える声も聞かれる。

【建設業】からは、「昨年に比べ、売上は増加」（一般工事業）との声がある一方、「原油高による建築資材および燃料費の高騰が、収益を圧迫」（建築工事業）、「改正建築基準法の影響による受注の減少、資金繰りの悪化に加え、倒産も発生」（一般工事業）との声が寄せられている。

【製造業】からは、「中国向けの輸出は好調」（織物業）との声がある一方、「原材料価格の上昇に対し、販売価格への転嫁は難しく、採算は悪化」（繊維機械製造業）、「建築基準法の改正により住宅着工件数が大幅に減少するなど、今後も悪影響が続く見込み」（製材木製品製造業）との声も寄せられている。

【卸売業】からは、「年末の売上の増加は期待できる見込み」（各種商品卸売業）との声がある一方、「原油価格の高騰により、仕入単価に加え物流コストも更に上昇し、採算が悪化」（各種商品卸売業）、「食料品の値上げの影響により、売上の減少を懸念」（農畜産水産物卸売業）との声も寄せられている。

【小売業】からは、「衣料・雑貨を中心に売上は好調」（百貨店）との声がある一方、「原油や原材料価格の高騰に伴う食料品の値上がりにより、消費意欲の減退を懸念」（商店街）、「大型店進出の影響により、売上の減少が続く」（商店街）との声が寄せられている。

【サービス業】からは、「昨年に比べ、売上は若干、上昇」（食堂・レストラン）との声がある一方、「原油価格高騰の影響による消費者の買い控え感があり、売上も減少傾向」（自動車整備業）、「食料品価格の上昇が続き、採算が悪化」（旅館）との声も寄せられている。

売上面では、全産業合計の売上DIは、マイナス幅が2.2ポイント拡大して29.9となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、DI値はサービスがほぼ横ばいであったものの、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

採算面では、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が2.9ポイント拡大して38.5となり、4カ月連続で拡大した。産業別にみると、DI値はサービスがほぼ横ばいであったものの、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

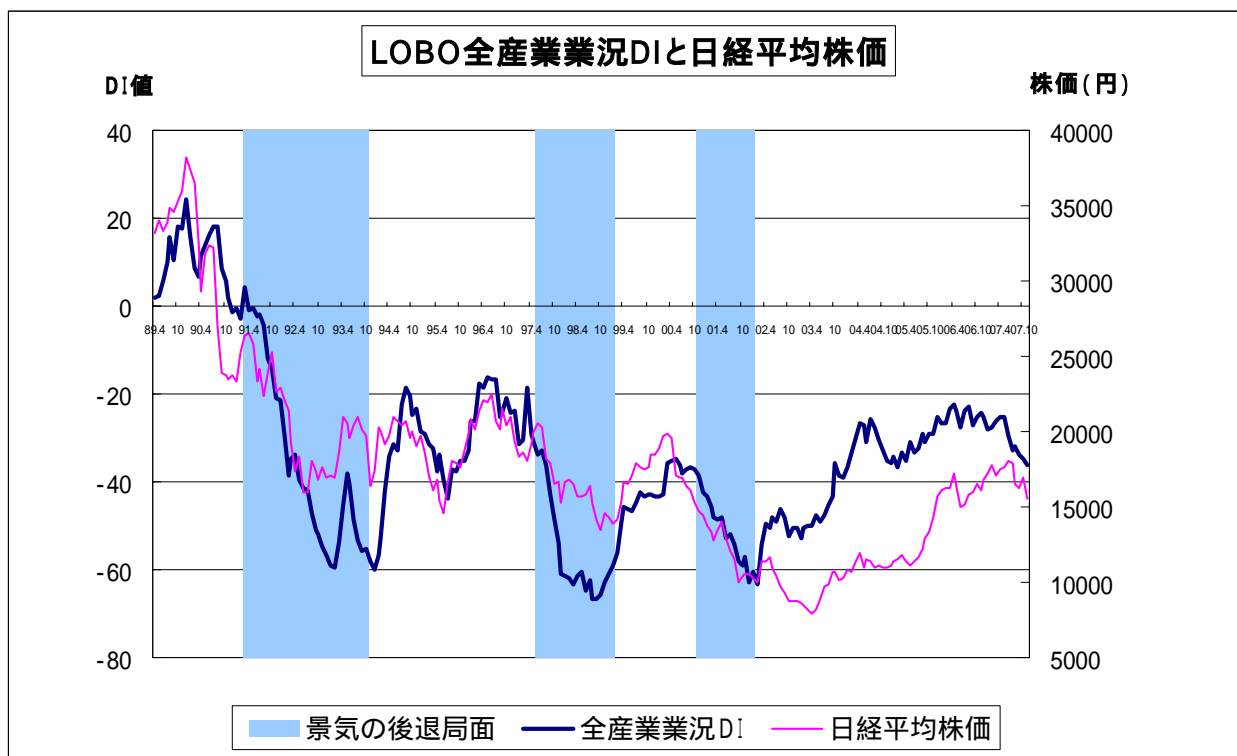
資金繰り面では、全産業合計の資金繰りDIは、悪化超感が2.7ポイント強まって24.9となり、4カ月連続で強まった。産業別にみると、DI値の悪化超感はずべ

ての業種で強まった。

仕入単価面では、全産業合計の仕入単価D Iは、上昇超感が4.6ポイント強まって44.4となり、10カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値の上昇超感はずべての業種で強まった。

従業員面では、全産業合計の従業員D Iは、過剰超感が1.4ポイント強まって2.2となり、2カ月連続で強まった。産業別にみると、D I値は製造で不足超感が強まったものの、サービスでほぼ横ばい、小売で不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。

向こう3カ月(20年1月~3月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I(今月比ベース)が39.9と、昨年同時期の先行き見通し(25.3)に比べて悪化している。



【業況についての判断】

12月の景況をみると、全産業合計の業況D I（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（36.1）よりマイナス幅が4.7ポイント拡大して40.8となり、4カ月連続で拡大した。

産業別にみると、卸売がほぼ横ばいであったものの、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月（20年1月～3月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況D I（今月比ベース）が39.9と、昨年同時期の先行き見通し（25.3）に比べて悪化している。

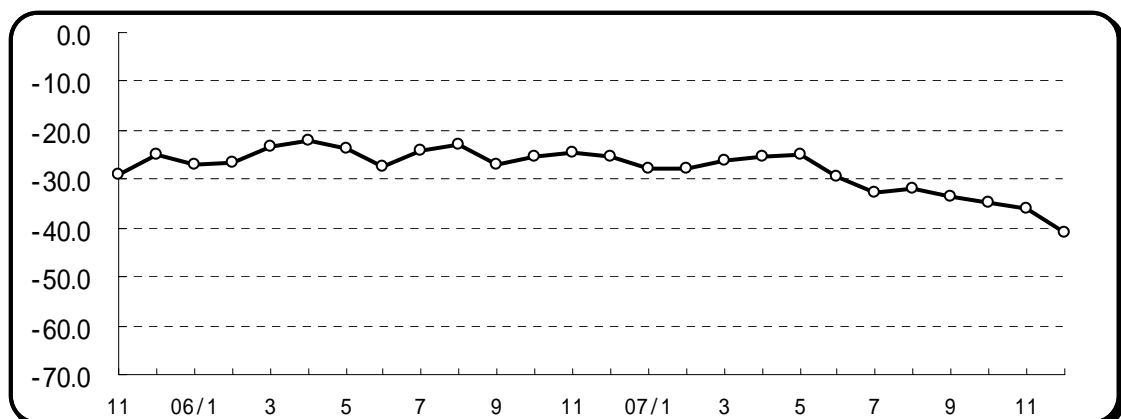
産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

業況D I（前年同月比）の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	32.8	32.0	33.6	34.9	36.1	40.8	39.9 (25.3)
建設	43.5	44.3	45.4	47.2	46.8	57.3	52.0 (36.5)
製造	26.3	23.5	27.5	27.0	29.2	34.9	34.5 (17.2)
卸売	42.6	48.4	41.1	44.3	45.6	44.9	41.7 (32.3)
小売	31.4	31.1	33.8	33.8	36.0	39.0	38.0 (20.9)
サービス	30.8	27.9	29.1	33.0	32.6	37.1	39.5 (29.0)

「先行き見通し」は当月に比した向こう3カ月の先行き見通しD I  
（ ）内は昨年12月の先行き見通しD I <以下同じ>

《業況D I（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

売上面では、全産業合計の売上D Iは、マイナス幅が2.2ポイント拡大して29.9となり、2カ月ぶりに拡大した。産業別にみると、D I値のマイナス幅はサービスで縮小したものの、他の4業種で拡大した。

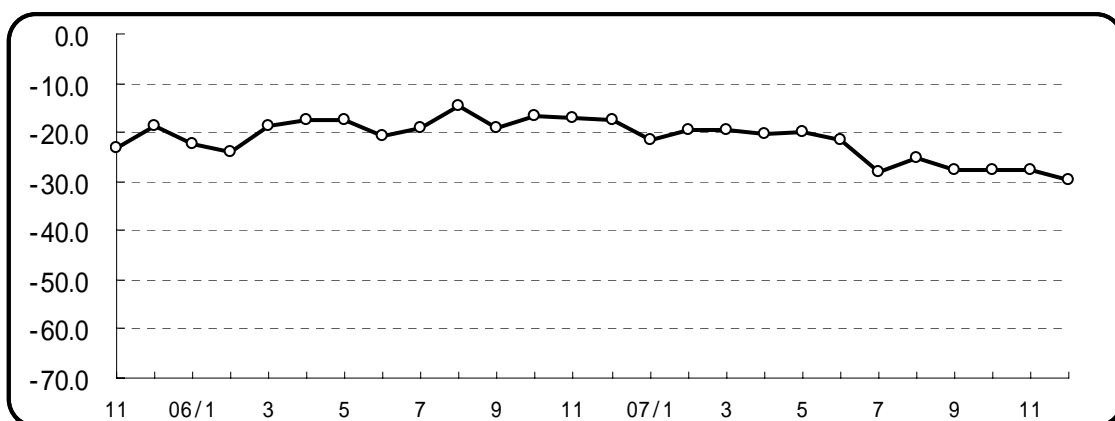
向こう3カ月(20年1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I(今月比ベース)が31.0と、昨年同時期の先行き見通し(21.1)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	28.2	25.1	27.5	27.8	27.7	29.9	31.0 (21.1)
建設	34.3	37.9	37.5	39.8	45.2	51.6	50.6 (29.8)
製造	20.1	12.1	16.1	19.0	18.0	19.1	24.8 (12.8)
卸売	35.2	43.2	39.9	33.5	33.8	39.1	27.7 (25.9)
小売	31.2	27.7	30.8	29.7	26.4	29.8	29.3 (18.2)
サービス	26.5	20.6	23.8	24.7	25.8	23.7	28.6 (25.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

採算面では、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が2.9ポイント拡大して38.5となり、4カ月連続で拡大した。産業別にみると、D I値はサービスがほぼ横ばいであったものの、他の4業種でマイナス幅が拡大した。

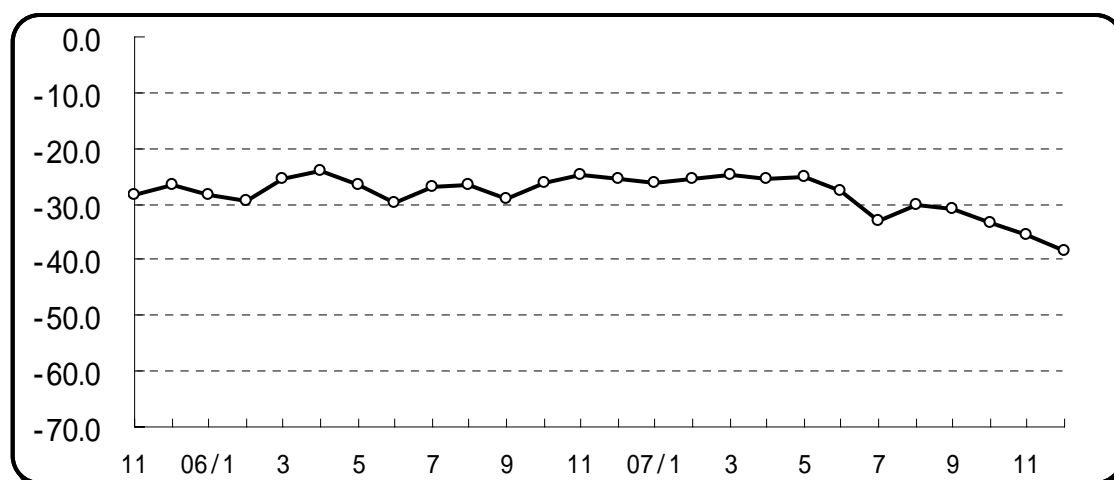
向こう3カ月(20年1月～3月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が38.3と、昨年同時期の先行き見通し(24.0)に比べて悪化している。

産業別に昨年同時期の先行き見通しと比較した場合、すべての業種でマイナス幅が拡大している。

採算D I(前年同月比)の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全産業	33.2	30.3	30.9	33.5	35.6	38.5	38.3 (24.0)
建設	45.7	40.2	43.8	46.3	50.0	56.7	56.3 (36.9)
製造	34.1	28.5	30.7	32.8	33.7	37.0	37.6 (19.4)
卸売	33.3	39.1	29.4	33.5	36.3	40.4	34.2 (25.3)
小売	27.1	27.3	27.6	30.6	31.4	34.3	32.0 (16.7)
サービス	31.3	25.8	27.4	29.4	33.1	32.6	36.9 (28.5)

《採算D I(全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	21.8	19.5	19.7	21.8	22.2	24.9	25.6 ( 17.4)
建設	35.5	34.6	35.1	37.6	34.5	38.3	37.7 ( 31.9)
製造	21.3	16.0	18.3	18.0	19.4	23.3	21.0 ( 13.5)
卸売	19.7	22.3	15.2	19.9	23.2	24.3	23.6 ( 16.1)
小売	18.1	18.0	17.8	19.3	17.1	20.7	21.9 ( 12.1)
サービス	17.1	12.6	13.7	18.2	22.0	23.0	27.8 ( 19.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は悪化超感が4カ月連続で強まった。産業別にみても、すべての業種で悪化超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は悪化超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	32.4	33.0	34.7	35.9	39.8	44.4	43.3 ( 19.7)
建設	43.3	43.1	43.6	43.7	47.4	53.1	47.1 ( 28.0)
製造	51.2	50.0	51.3	50.2	54.4	57.5	51.2 ( 29.8)
卸売	27.8	31.6	33.6	26.6	30.0	34.0	40.4 ( 22.2)
小売	17.6	18.1	22.3	26.2	29.9	34.1	38.3 ( 9.2)
サービス	25.1	26.4	27.1	31.4	35.2	41.4	39.5 ( 15.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】全産業合計は上昇超感が10カ月連続で強まった。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まった。

【先行き見通しD I】全産業合計は上昇超感が強まる見通し。産業別にみても、すべての業種で上昇超感が強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1~3月
全産業	2.3	1.3	0.9	0.3	0.8	2.2	2.7 ( 1.1)
建設	16.6	16.7	13.6	15.0	15.5	18.0	17.1 ( 12.2)
製造	1.7	0.5	0.5	1.7	0.0	1.0	0.2 ( 4.1)
卸売	4.3	7.7	7.2	1.3	1.9	5.1	7.7 ( 9.0)
小売	3.0	4.2	6.6	5.3	4.5	1.5	2.0 (5.9)
サービス	0.5	2.9	0.5	0.5	1.8	1.1	0.3 (4.6)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】全産業合計は過剰超感が2カ月連続で強まった。産業別にみると、製造で不足超感が強まったものの、サービスでほぼ横ばい、小売で不足超感が弱まり、建設、卸売で過剰超感が強まった。

【先行き見通し D I】全産業合計は過剰超感が強まる見通し。産業別にみると、製造で不足超感に転じ、卸売で過剰超感が弱まる一方、小売で不足超感が弱まる他、サービスで過剰超感に転じ、建設で過剰超感が強まる見通し。



【平成19年12月の景気キーワード】

悪化への懸念

各業種から、業況の悪化と先行きへの懸念を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原油価格の高騰に伴う燃料費、石油製品の値上がりの影響が大きく、相変わらず厳しい状況が続く見込み」(札幌・一般工事業)、「受注量、売上は上昇している一方、採算の悪化は今後も続く見込み」(西尾・鉄素形材製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「食品関連商品の値上げが予定されており、業況の悪化を懸念」(倉吉・農畜産水産物卸売業)、「生活用品の相次ぐ値上げにより、年末年始の売上の減少を懸念」(伊万里・商店街)、「原材料価格の上昇が営業利益を圧迫、今後、更なる悪影響を懸念」(帯広・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

仕入コスト上昇

各業種から、原材料価格の高騰による仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。建設、製造からは、「原油価格の更なる値上げにより、採算が悪化。他の資材価格の値上がりも今後の懸念材料」(帯広・一般工事業)、「原材料、包装資材価格の高騰が収益を圧迫」(新潟・水産食料品製造業)、「原材料価格の上昇に対し、製品価格への転嫁は難しく、採算が悪化」(水戸・パン・菓子製造業)との声が寄せられている。また、卸売、小売、サービスからも、「原油価格に加え、食料品の価格も上昇するなど、経費が増加」(土別・その他の小売業)、「食料品や灯油の値上げが、採算の悪化に影響」(土別・旅館)といったコメントが寄せられている。

消費意欲の低下

原油価格の高騰に伴う各種商品の値上げに対する不安感から、消費者の購買意欲の低下による悪影響を挙げる声も寄せられている。小売からは、「原油価格の高騰に伴う各商品の値上げにより、個人消費が低迷」(柏・その他の小売業)、「ガソリン価格の上昇など、消費意欲を低下させる要因が続き、売上の減少への影響を懸念」(静岡・商店街) サービスからは、「ガソリン・生活用品価格の上昇の影響により、来客数・売上が減少」(大府・理容業)、「忘年会・新年会の予約が減少するなど、厳しい状況」(境港・食堂・レストラン)といったコメントが寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
19年10月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	気温低下の影響
11月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下
12月	悪化への懸念	仕入コストの上昇	消費意欲の低下

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関する自由回答をまとめたもの。

本文中の( )内は、(地名・業種)を示す。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは2カ月ぶり、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「今後、一層の仕事量の減少が予想されるなど、業界は厳しい状況」(一般工事業)「競争激化による低価格受注が相次ぎ、収益に影響」(建築工事業)「建築基準法の改正により、新築工事の着工件数が減少。今後、受注の減少により資金繰りへの悪影響を懸念」(電気工事業)「公共・民間工事とも需要は少なく、厳しい状況」(建築工事業)といった声が寄せられている。
製 造	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは2カ月ぶり、採算D Iは4カ月連続でマイナス幅が拡大した。「O A機器への設備投資は好調」(一般産業用機械業)との声が寄せられる一方、「受注先からの値下げ要求が続き、コスト削減を行うも収益を圧迫」(金属加工機械業)「原油価格高騰の影響により、原材料価格の値上げが続き、採算が悪化」(印刷関連工業)「中国製の輸入品の増加により、厳しい状況」(金属製品製造業)「依然として業況は厳しく、従業員も過剰状態」(金属加工機械業)といった声が寄せられている。
卸 売	業況D Iはほぼ横ばい、売上D Iはマイナス幅が2カ月連続、採算D Iは3カ月連続で拡大した。「石油関連商品の値上げが増加」(各種商品卸売業)「メーカーからの仕入価格の値上げが続く一方、納入価格は変更できず、収益が悪化」(家具・建具等卸売業)「婦人服・寝具関係は昨年に比べ売上が減少」(衣服・日用品卸売業)「原材料価格の上昇に対し、小売価格は販売競争の激化で値上げが難しい状況」(農畜産水産物卸売業)といった声が寄せられている。
小 売	業況D Iは2カ月連続、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは7カ月連続でマイナス幅が拡大した。「省エネ関連の商品は好調」(百貨店)との声が寄せられる一方、「業界内の競争激化に加え、原油価格の高騰に伴いメーカーを中心に仕入値の値上げ要請が相次ぎ、厳しい状況」(百貨店)「大型店の進出の影響により、売上が減少」(その他の小売業)「ガソリン・灯油をはじめ原油価格高騰の影響により、個人消費は一層の減少傾向」(百貨店)といった声が寄せられている。
サービス	業況D Iは2カ月ぶりにマイナス幅が拡大、売上D Iは4カ月ぶりに縮小、採算D Iはほぼ横ばいとなった。「原材料価格高騰の影響に伴う収益の悪化により、人員削減は避けられない状況」(自動車整備業)「原油価格の高騰により、採算面の悪化や、個人消費の停滞を懸念」(旅館)「低料金店との競合により、売上が悪化」(理容業)「昨年よりも来客数は増加しているが、仕入単価の上昇により、収益は減少」(他の一般飲食店)「ガソリン代の値上げの影響により、物流コストが上昇」(運送業)といった声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）は、北海道、四国でマイナス幅が縮小したものの、他の7ブロックで拡大した。なお、全ブロック合計は4カ月連続でマイナス幅が拡大した。

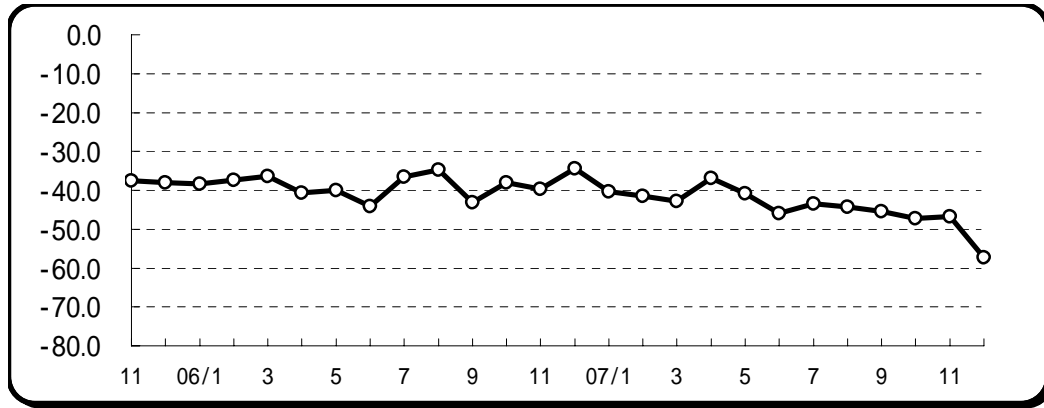
ブロック別の向こう3カ月（20年1月～3月）の業況の先行き見通しは、昨年同時期と比べて、四国で改善しているものの、その他8ブロックで悪化している。なお、全ブロック合計は悪化している。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

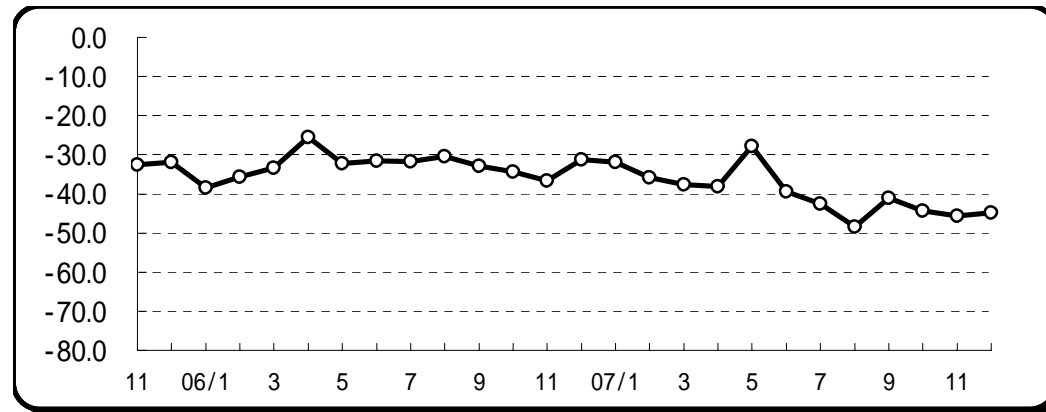
	19年 7月	8月	9月	10月	11月	12月	先行き見通し 1～3月
全 国	32.8	32.0	33.6	34.9	36.1	40.8	39.9 ( 25.3)
北 海 道	36.4	37.1	35.5	39.8	46.5	41.7	37.9 ( 30.8)
東 北	36.6	31.7	34.8	39.0	36.8	44.7	45.4 ( 28.7)
北陸信越	39.2	30.3	34.9	31.6	35.5	40.6	40.0 ( 22.8)
関 東	29.3	27.8	30.3	31.7	29.9	39.1	36.9 ( 18.5)
東 海	28.6	30.2	32.9	33.1	32.5	37.0	37.9 ( 25.2)
近 畿	31.1	31.4	32.2	37.1	32.5	43.4	43.9 ( 27.3)
中 国	36.6	39.8	44.0	38.8	41.2	42.6	42.6 ( 29.8)
四 国	33.9	43.1	42.3	35.3	46.6	37.3	38.4 ( 38.6)
九 州	32.0	29.5	26.1	35.1	40.1	42.7	39.6 ( 22.5)

# 業況D I（前年同月比）の推移（全国）

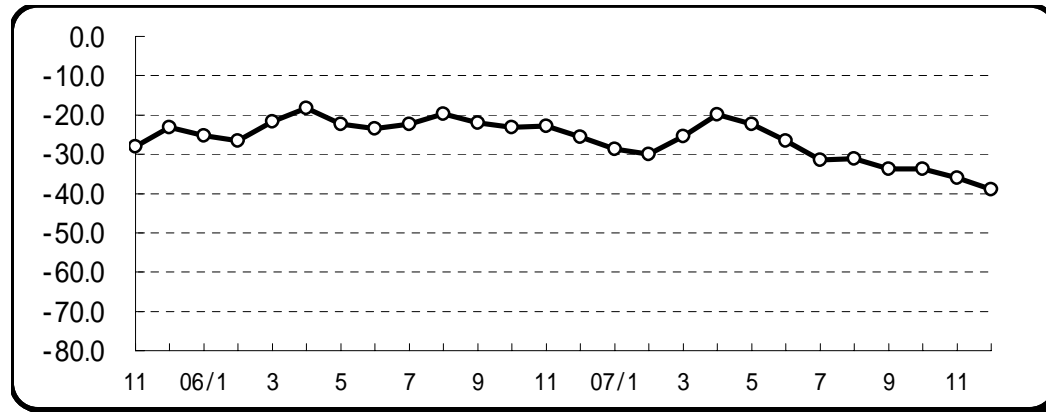
## 建設業



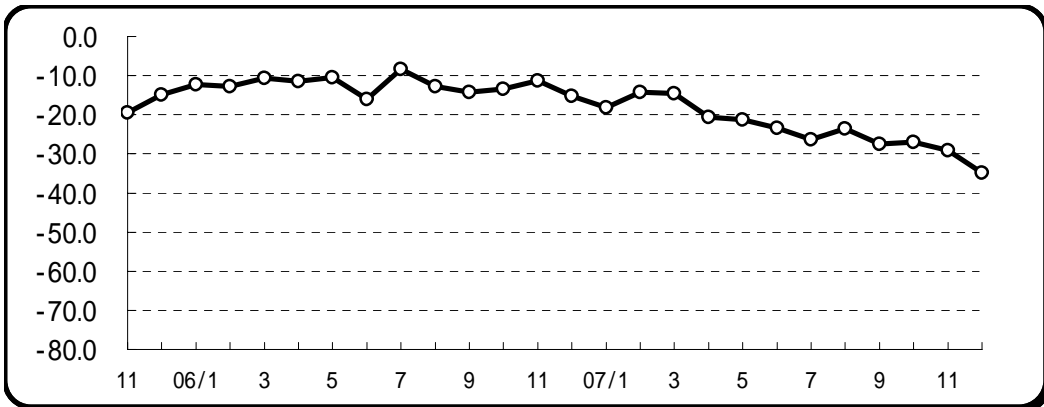
## 卸売業



## 小売業



## 製造業



## サービス業

